

# 慰めとしての終末

シリーズ～終末を生きる～

2018/3/4

## ヨハネの黙示録21章1～4節

わたしはまた、新しい天と新しい地を見た。最初の天と最初の地は去って行き、もはや海もなくなつた。更にわたしは、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意を整えて、神のもとを離れ、天から下って来るのを見た。

そのとき、わたしは玉座から語りかける大きな声を聞いた。「見よ、神の幕屋が人の間にあつて、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のもものは過ぎ去ったからである。」

# 新しい天と新しい地

「わたしはまた、新しい天と新しい地を見た。最初の天と最初の地は去って行き、もはや海もなくなった。」

## ▶ 「新しい天と新しい地」

- 今存在している世界に代わり、新しい世界が創造される

## ▶ 「最初の天と最初の地は去って行き」

- 人間が神に背いたことによって混乱し破壊された世界はなくなる

## ▶ 「もはや海もなくなった」

- 海は現在の地球環境を作りだしているが、新しい世界には必要ない？

# 新しいエルサレム

「聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意を整えて、神のもとを離れ、天から下って来るのを見た。」

## ▶ 「聖なる都、新しいエルサレム」

- 「エルサレム」とは神がご自分の民と共に住まわれる場所のこと

## ▶ 「夫のために着飾った花嫁(教会)のように」

- キリストがすべてを捨てて救い出した教会を、花嫁として迎え入れる

## ▶ 「神のもとを離れ、天から下って来る」

既に天に帰った聖徒たちも一緒にやって来る？

# 完全に神と人が共にある

「見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて」

## ▶ 「神の幕屋が人の間に」ある

- 「幕屋」とは出エジプトの時に用いられた移動用の神殿。神と人が交わる場所

## ▶ 「神が人と共に住み、人は神の民となる」

- 神と人は完全に一緒になる
- 今もキリストは(バーチャル)共におられるけれど、新天新地では、**リアル**に永遠に共におられる

## ▶ 「神は自ら人と共にいて」

神「**自ら**」が私たちと共にいて下さる

# 死も悲しみも嘆きもない

「もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のもものは過ぎ去ったからである。」

## ▶ 「もはや死もなく」

- 死は罪の報いであり、人間にとっても最大の悲しみであり敵であった「死」がなくなる

## ▶ 「もはや悲しみも嘆きも労苦もない」

- 人間を悲しめているすべての不幸がなくなる
- 労働の必要もなくなる

## ▶ 「最初のもものは過ぎ去った」

- 今の世界で起こっている争いや病い、理不尽な出来事はなくなる

# 慰めとしての終末

「神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。」

▶ 神は私たちの悲しみを知っておられ、心を痛めておられる

◦ 「主はこの母親を見て、憐れに思い、『もう泣かなくともよい』と言われた。」ルカ7:13

▶ 「彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる」

◦ 神自らが私たちの涙をぬぐい取ってくださる

◦ しかも「ことごとく」：神は私たちの悲しみを「ことごとく」知っておられる